

2021年3月のルクセンブルク経済・金融情勢について、各種報道をとりまとめたところ、次のとおり。

## 1 統計関連

● 2021年3月のインフレ率は年率1.98%（前月-0.08%）（4月7日付統計局プレスリリース）

● 2021年2月の失業率は6.2%（前月6.4%、前年同月5.4%）、2021年3月の失業率は6.1%（前年同月6.1%）（4月20日付統計局及び職業安定所プレスリリース）

● STATECによれば、パンデミックがゆっくりと収束へ向かい、ワクチン接種が迅速に行われ、企業活動が再開された場合、2021年、ルクセンブルク経済の実質成長率は4%に戻る可能性がある。（3月1日付当地報道機関RTL）

● 新型コロナウイルスのパンデミックが始まってから1年となることを受けたLuxembourger Wort紙の調査結果によれば、ルクセンブルクでは約60%の人々が、パンデミックによって家族や友人との交流がなくなったと回答している。また約70%の回答者がパンデミックは自分の生活に悪影響を与えたと回答した。また、影響がなかったとする人々は19.8%に対して、10人に1人が自分の生活にポジティブな影響を与えていると回答している。（3月3日付Luxembourg Times紙）

● 市場調査会社のQuest社による計500人を対象とした調査によれば、ルクセンブルクにおける労働者の内、パンデミックによって、20%が精神的に大きな影響を受けた反面、57%が緊張感を感じているものの、対処することができている。また在宅勤務によって生産性が向上したという回答者は少なく、労働者の3人に2人はそれを神話だと考えている。（3月5日付当地報道機関RTL）

● ルクセンブルクにおいて、全ての労働者の内、女性は38%を占める反面、女性管理職の割合はEUの中で最も低い水準にあり、全体の28%であった。EUにおける女性管理職の割合は、2002年の第2四半期には30%弱であったが、現在は34%に徐々に増加している。（3月5日付当地報道機関RTL）

● ルクセンブルクにおいて、2022年までに運行されるバスの40%が電動となる。（3月9日付当地報道機関RTL）

● 幸福度をランキングで示す国連の「世界幸福度報告書」が発表され、ルクセンブルクは8位であった。（3月19日付当地報道機関RTL）

## 2 政府等関連

● 3月6日、グラメーニャ財務大臣はアフリカ開発銀行（AfDB）理事会臨時会合に参加し、ドイツ、スウェーデン、デンマークとともに、一部の重要株主の格下げ見通しによるAfDBの格下げを回避するため、AfDBの請求払資本の特別かつ一時的な増加を約束した。（3月6日付財務省コミュニケ）

●グラマーニャ財務大臣は、国民議会において、2021年2月末時点の財政状況について、報告を行い、「2021年2月末の財政状況は、やや安心感のあるものになっている。政府の収入は前年同期比+3.8%の34億ユーロとなった。この数字は、2020年の最初の2ヶ月間がパンデミックの影響を受けなかった唯一の期間であり、貴重な比較ができる可能性があるため、より安心感がある。」と述べた。欧州会計方式（ESA2010）に準拠した2月末までの直接税の徴収金額は16億5,000万ユーロで、2020年2月と比較して+9.5%の増加となった。付加価値税等の収入は、1%の微増で、11億4,800万ユーロに達した。税関からの収入については、2021年1-2月期でも、徴収した収入は2億5300万ユーロで、▲17.9%の大幅な減少となった。このマイナス成長は、パンデミックによる景気後退とテレワークの普及による影響に加え、2021年当初に炭素税の導入により、近隣諸国との価格差が縮小したことによるものである。しかし同時に、当国の気候目標に沿って温室効果ガスの排出量が削減されたことも歓迎すべきことである。ESA2010に準拠した政府の総支出額は35億ユーロで、2020年の1-2月期と比較して+1.6%の増加にとどまった。注目すべきは、投資額が2億1,500万ユーロ（+12.7%）に達したことであり、これは本政権の特徴である経済とイノベーションへの支援政策を示している。収入の増加率（+3.8%）が支出の増加率（+1.6%）を上回ったため、2月末時点の財政赤字は、▲1億1,700万ユーロとなり、2020年2月のマイナス収支（▲1億8,900万ユーロ）よりも減少した。（3月22日付財務省コミュニケ）

●国際女性デーを受けて、ユーロスタットが出した報告書によれば、ルクセンブルクは女性議員及び政府閣僚の両方の点において、EU平均を下回っている。国民議会の60人の議員の内、19人が女性であり、これは32%に相当する。これはEU平均の33%を下回り、加盟国27カ国の内、11位である。また政府閣僚17人の内、5人が女性であり、これはEU平均の33%を下回り、加盟国27カ国中14位である。（3月18日付当地報道機関RTL）

●当国は、-0.045%というマイナス金利での債券発行による資金調達を成功裏に終えた。10年債を25億ユーロ分発行しており、償還は2031年3月となる。（3月17日付財務省コミュニケ）

●当国の国家倫理委員会の報告において、時間経過及び利用可能なワクチン量の増加に伴い、ワクチン証明書の導入を回避できないと結論づけた。同委員会は、欧州モデルの、いわゆるデジタルグリーン証明書のアイデアを支持しており、これは最終的には、同証明書が渡航時のPCR検査の陰性証明に取って代わる可能性を意味する。現時点では、当国のワクチン接種戦略において、ワクチン未接種者が当国居住者の大多数を占める中で、同委員会は、ワクチン接種者に対する特権付与に反対しており、最終的には、国際的に認められた証明書を使用することを支持しつつも、それを「特権的なパスポート」と見なすべきではないと強調している。（3月19日付当地報道機関RTL）

### 3 企業等関連

●世界的なIT企業であるIBMルクセンブルク支店は、職員の10%にあたる38人の従業員を解雇する。これは新型コロナウイルスによる危機には関係なく、業務コストの削減とより自動化を進めるためと説明されている。（3月11日付Luxembourg Times紙）

※当国政府機関の公表資料や各種報道などの公開情報を取りまとめたもの。